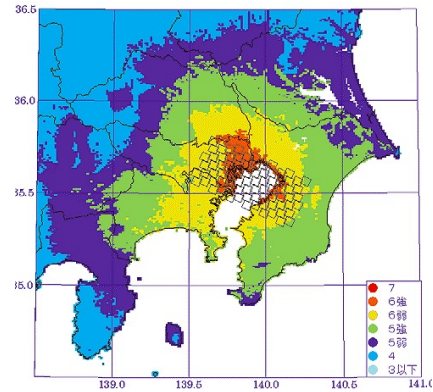


# 首都直下地震時の 災害ボランティア活動 連携訓練



主催：内閣府（防災担当）

日時：平成26年12月11日（木）13：00～17：00、12日（金）9:30～16:30

会場：有明の丘基幹的広域防災拠点施設 会議室

# オリエンテーション

## 【訓練の目的】

- 1 首都直下地震を知る
- 2 拠点や体制を考える
- 3 連携を考える

### 話題提供

- ・ 訓練の目的、これまでの成果、東京都内の取組、首都直下地震の被害の特性

### ワーク1 「被害を理解する」

- ・ 道路規制や建物被害などを大判地図に書き込みます

### ワーク2 「首都圏域の支援の方向性を共有する」

- ・ 発災2週間後、各地の支援拠点や体制を考え、共有します

### ワーク3 「情報共有、連携をイメージする」

- ・ 各地の支援活動の内容を考え、関東圏で共有と連携方策を話し合います。

## 【配布資料の修正（3ページ）】

1 2日のプログラム

4) ワーク3 「情報共有、連携をイメージする」

13：50～14：15

正しくは、

# 13:00～15:45

## 【訓練の企画・運営】

訓練の企画と運営は、

「ワーキング・グループ」が担当します

災害救援の実績があるNPO、NGO、社協職員など

# 運営スタッフ

首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練ワーキング

## 【参加者】

1) プレイヤー：都内50名、都外40名



2) 見学者：60名

## 地域も、立場も様々

- 社協職員
- NPO・NGO
- 生協
- 大学
- 労働組合
- JC
- 行政 など





## 【お願い】

- ◆ 会議室内は、食事禁止です
- ◆ 会議室内の設備、機材にはふれない  
てください
- ◆ 携帯電話はマナーモードに。通話は  
廊下でお願いします
- ◆ 会議室以外は立入らないください
- ◆ 撮影は自由
- ◆ 資料に「氏名」を書いてください

## 【見学者へのお願い】

- ◆ ワーク中は、プレイヤーに話しかけ  
ないください
- ◆ 質問やご意見は、運営スタッフまで
- ◆ 会議室以外は立入らないください
- ◆ 撮影は自由
- ◆ お帰りの際は、運営スタッフに声を  
かけてください

# 【話題提供1】

## 訓練の目的、 これまでの成果

### なぜ「連携」なのか？

- 東日本大震災、数多くの市民活動団体が活動を展開

- しかし、**バラバラ**（被災地、誰が、どこで、どんな活動をしているのかわからない）

- 情報共有や連携の**しくみや機能**が不十分だった

## 訓練の意義

- 平時から考える、取組む
- 災害を理解する
- 災害時の体制や対応を考える
- 顔が見える関係をつくる
- 情報共有、連携を実感する



## 訓練（ワークショップ）

### 昨年度の実績

南海トラフ地震の甚大な被害が想定され、地域での取

組が展開されている地域 **高知・静岡**

地域の関係者だけではなく、**地域外**からの参加

災害時の **しくみや取組を検証**



# 市町支援チーム がワークを支援



# 地域の課題や 対応を考えて





# 市町共有会議



## 【高知】

- 2月20日～21日（高知市内）
- 参加者約80名（プレイヤー50名、県内30名、県外20名）
- 県のブロックごとに、県内・県外がペアになって被害や取組をワーク
- 県本部、バックヤード拠点、ブロックごとの市町連携などをまとめた「ガイドライン」を検証

# 南海地震を知る



被害を地図に  
書き出していく





県内、県外  
できることを  
一緒に考える



市町村を支える  
しくみを考える

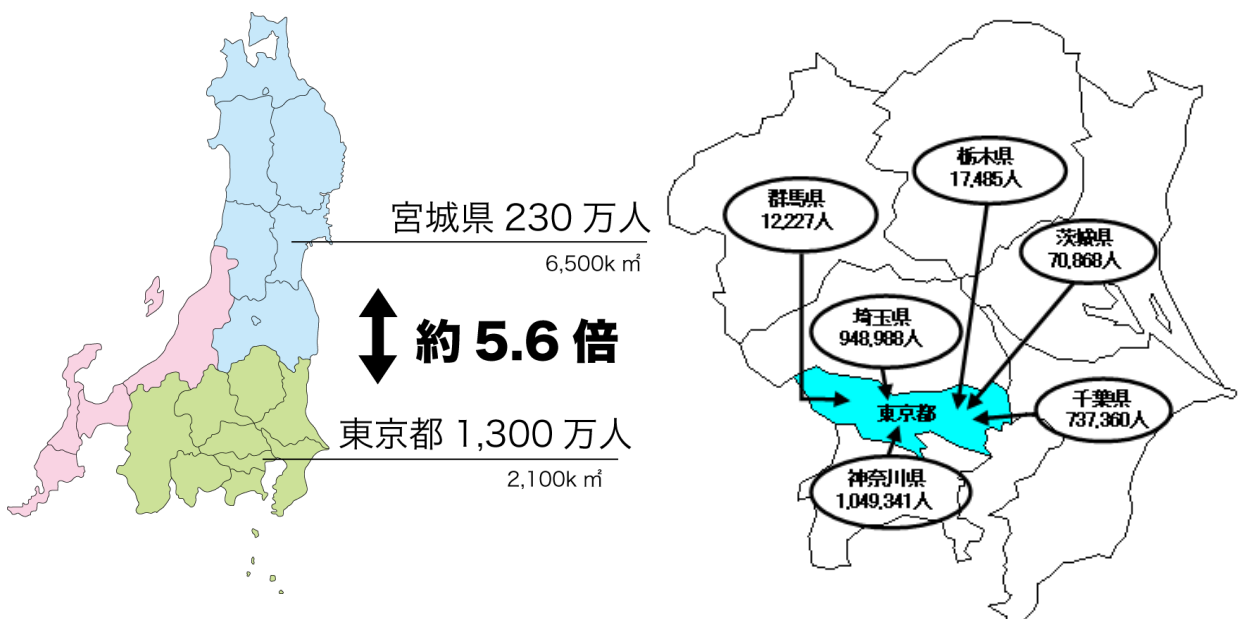




## 目的 (ねらい)

- 1 首都直下地震を知る
- 2 拠点や体制を考える
- 3 連携方策をさぐる

## 首都圏の特徴 (例)



## 【期待すること】

訓練で、「広域連携」の課題のすべては

# 解決しません

# 訓練後に取り組む

ことのヒントを探してください